

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		アップ↑るTREE	公表日				令和	7年	2月	7日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点				
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%	0%	集団で利用する机だけでなく、個人で利用できるサイズの机も設置している。					
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	100%	0%	1対1の対応ができるように配置している。					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	40%	60%	活動のスケジュールはイラストと文字にして、確認しやすい場所に掲示している。	段差があり、つまづきやすい所がある。				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%	0%	新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行してからも同様に消毒の徹底を行っている。					
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100%	0%	施設の構造上完全な個室は難しいが、集団から離れて過ごせる場所を複数設けている。					
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	100%	0%	ランチミーティングや終業後ミーティングで共有し、都度目標設定をしている。					
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%	0%		いただいたご意見をもとに実現できる改善方法を具体的に考えていく。				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%	0%	ランチミーティングや終業後ミーティングにより、一人で抱え込みすぎないように工夫している。					
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0%	100%		今後第三者評価の導入も検討していく。				
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%	0%	虐待防止研修、心理士による法人内研修、医師とのケースカンファレンスなどに取り組んでいる。					
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%	0%						
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）を作成しているか。	100%	0%	医療機関及び事業所内で実施した発達検査の結果や子どもの活動の様子を分析し、保護者様のニーズを踏まえながら、支援内容を考えている。					
	13	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	80%	20%	ミーティングを実施し、計画作成後職員共有をしている。	子どもに係る職員も話し合いに積極的に参加していく。				
	14	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%	0%	共有したのちに支援を実行し、ミーティングで支援方法について振り返りを行っている。					
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100%	0%	日々の行動観察は綿密に行っている。	Vineland-Ⅱなどの使用も検討する。				
	16	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）には、児童発達支援（放課後等デイサービス）ガイドラインの「児童発達支援（放課後等デイサービス）の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	80%	20%	本人のニーズや家族のニーズだけでなく、生活年齢や発達年齢も踏まえながら支援内容を考えている。	子どもに係る職員も児童発達支援ガイドラインの内容を理解したうえで支援をしていく。				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%	0%	職員で話し合う時間を持つようにしている。					

の提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%	0%	季節や行事に合わせた活動を計画している。 また、子どもの成長に合わせて新しい活動を提案している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）を作成し、支援が行われているか。	100%	0%	集団活動においては、社会性の発達段階に合わせた支援計画を作成している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%	0%	朝のミーティングでは午前中の支援や役割分担について、ランチミーティングでは午後からの支援や役割分担の確認をしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100%	0%	終業後ミーティングで必ず打ち合わせをしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%	0%	記録を徹底したうえで終業後ミーティングを行っている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%	0%	支援プログラムの5領域の発達経過と課題を分析して、支援の見直しを行っている。	
	24	【放デイのみ】 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。				
	25	【放デイのみ】 こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。				
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%	0%	日々の支援を中心に行っている担当者が会議に参加するようにしている。	適宜事業所からサービス担当者会議の提案をするなどして、密な連絡ができるようにしていく。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%	0%	地域の小児科や療育センター、子育て相談センターなど多機関と連携している。	
	28	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	80%	20%		スーパーバイズや助言を受けられる体制について検討していく。
	29	保育所や認定こども園、幼稚園等、または放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	40%	60%		交流の機会が増えるように相談していく。
	30	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%	0%	可能な限り保護者様と対面でその日の様子をお伝えできるようにご協力いただいている。	
	31	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	0%	100%	プログラムとしては実施していないが、お子さんとかかわりについてのアドバイスをする時にペアレント・トレーニングの技法を取り入れている。	ペアレントトレーニングができる職員を増やす為、研修などに参加していく。
	32	【児童事業所・児童センターのみ】 併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。 また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100%	0%	一時的な視点ではなく、小学校などの先を見越した包括的な支援を行っている。 園との役割分担を行い連携していくことで、情報を共有し支援の質を高めている。	
	33	【児童事業所・児童センターのみ】 就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100%	0%	保護者様から小学校との情報共有のご要望があった場合は、K式発達検査の結果や事業所内での支援内容などをお伝えしている。	
	34	【児童センターのみ】 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	35	【児童センターのみ】 質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	36	【児童センターのみ】 (自立支援)協議会・こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	37	【放デイのみ】 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。				
	38	【放デイのみ】 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。				

	39	【放デイのみ】 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。				
	40	【放デイのみ】（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。				
保 護 者 へ の 説 明 等	41	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%	0%	契約時に書面だけでなく、要点を具体的に説明するよう心掛けている。	
	42	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%	0%	利用開始前の面接やモニタリングにおいて丁寧な聞き取りを心掛けている。	
	43	「児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	100%	0%	日頃の支援の様子などもお話ししながら、できるだけ具体的に説明するように心掛けている。	
	44	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%	0%	定期外でも送迎時や電話などでご相談があった場合は、内容によっては面接や電話相談の機会を設けている。	
	45	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	100%	0%	年に1回親子遠足で保護者様やきょうだいの交流の場を作っている。	
	46	こどもや保護者からの相談や苦情、申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や苦情、申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%	0%	苦情受付窓口の設置について重要事項説明書に記載し、説明している。現在まで苦情受付窓口の利用はないが、受け付けた際は、迅速に会議をもち、対応へと繋げる。	
	47	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	0%	100%		HPをリニューアルし、発信ツールとして活用できるようにしていく。
	48	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%	0%	職員には秘密保持に関する誓約書を入社時に取り交わしているとともに、子どもの個人情報使用に関する同意書を保護者様より頂いている。	
	49	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%	0%	子どもに対しては、絵カードを活用して情報を伝達している。保護者様には、面接時だけでなく、送迎時や電話の際に、保護者様の気持ちに寄り添った意思疎通を心がけている。	
	50	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	40%	60%		地域との交流の機会について相談していく。
	51	【放デイのみ】 家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。				
非 常 時 等 の 対 応	52	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%	0%		周知方法を工夫し、訓練が実用的なものとなるように改善していく。
	53	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	75%	25%		色々な場面を想定し、訓練が実用的なものとなるように改善していく。
	54	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	100%	0%	支援開始前のアセスメントで既往症やかかりつけ医も含めて確認し、対応について保護者様とも相談している。	
	55	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%	0%	支援開始前のアセスメントでアレルギーについて確認し、対応について保護者様とも相談している。	
	56	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%	0%	災害だけでなく、熱中症など季節に合わせた点検や訓練も行っている。	
	57	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100%	0%		具体的かつ簡潔な周知方法について考えていく。
	58	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%	0%	ヒヤリハットが起きた場合は、記録及びその日の振り返りで共有し、同じことが起きないように改善策を検討している。	

	59	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%	0%	日本子ども虐待防止学会に参加するなどして、研修の質を高めている。	
	60	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	100%	0%	身体拘束が虐待にあたるという認識のもと、やむを得ず身体拘束に至らないように支援方法を検討している。	